

使徒言行録 15章 12節～21節。すると全会衆は静かになり、バルナバとパウロが、自分たちを通して神が異邦人の間で行われた、あらゆるしるしと不思議な業について話すのを聞いていた。二人が話を終わると、ヤコブが答えた。「兄弟たち、聞いてください。神が初めに心を配られ、異邦人の中から御自分の名を信じる民を選び出そうとなさった次第については、シメオンが話してくれました。預言者たちの言ったことも、これと一致しています。次のように書いてあるとおりです。『「その後、わたしは戻って来て、／倒れたダビデの幕屋を建て直す。その破壊された所を建て直して、／元どおりにする。それは、人々のうちの残った者や、／わたしの名で呼ばれる異邦人が皆、／主を求めるようになるためだ。」昔から知らされていたことを行う主は、／こう言われる。』

それで、わたしはこう判断します。神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。ただ、偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるようにと、手紙を書くべきです。モーセの律法は、昔からどの町にも告げ知らせる人がいて、安息日ごとに会堂で読まれているからです。」

エルサレムの使徒会議は、異邦人宣教に携わり成果を得たグループと異邦人にも律法と割礼を強要すべきであるとするグループの主張が激しく対立した。異邦人伝道を体験し、エルサレム教会の第一の使徒となったペトロが「なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった軛（律法）を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです」と発言した。会衆はしばらく沈黙した。バルナバとパウロが再度、異邦人が主イエスの福音を受け入れ、不思議な業が起こったことを説明した。二人が話し終わると、ヤコブが立ち上がった。ヤコブは領主ヘロデに殺害された使徒ヤコブではなく、主イエスの弟である。彼は、兄イエスがエルサレム神殿当局から命を狙われていると知り、心配し、故郷ナザレに呼び戻そうとしたことがあった。後に、復活した主イエスに出会い、エルサレム教会に加わり、重鎮になっていた。このヤコブが「兄弟たち、聞いてください」と呼びかけ、語った。神は異邦人の中から主イエスを信じる者を選び出されたことについてはシメオン（ペトロのヘブライ名）から聞いた通りである。預言者たちも同じことを書いていると、アモス、イザヤ、エレミヤの言葉をいささか強引であるが、引用し、破壊された幕屋（教会）を建て直し、元通りに建て直された幕屋にユダヤ人と共に異邦人も、主を求めて集って来ると語っている。そして最後に、「わたしはこう判断します。神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません」と、異邦人に割礼や律法を強いてはならないと締めくくった。ヤコブの発言で、異邦人にユダヤ教の教義、伝統を強制しない、あるがままで、主イエスの救いに与ることができるという結論に達した。教会は福音の真理に立ち、異邦人に門戸を開くことができた。使徒会議における福音理解の一致は、後の宣教に決定的な意味と方向性を与えた。私は、教会を導く聖霊の導きを見て感動を覚える。

ただ、「使徒教令」と言われる「偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるように」という付帯事項がつけられた。これらはユダヤ教の教えを色濃く反映している。使徒会議において、妥協が図られたのではないか。パウロはガラテヤ書において、これらの付帯事項を無視している。